

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○全体的には県平均より上回っているのよい。最後まで無回答なしで真摯に問題に取り組んでいる。 ●読むスピードが遅いので最後になると時間がなくなっている傾向がある。 資料を読解するのに資料を読み比べたり、見返したり、たくさんの資料に書かれていることを読みとる力をつける必要がある。 ●資料のページをめくって戻る経験や、理由を書いたり、設問にある条件に合わせて自分の考えをまとめる力をつける必要がある。	・長文に読み慣れる。(ある程度文章の本を読む) ・資料を読み比べたり、見返したり、たくさんの資料に書かれていることを読みとるような形式の問題にやり慣れる。 ・普段の国語等の学習から、ただの感想を書くのではなく文章や言葉の意味などを根拠に自分の考えを話したり、書いたりする学習に取り組むようにする。
算数	○分数の足し算は全員が正答するなど、基礎的・基本的な力は身に付いている。 ●記述問題に意欲的に取り組んでいるが、正答を導き出すことができていない。 ●似たような問題でも、条件がたくさん出てくると正解を導き出すことが難しい。	・文章で解答する際には、短い言葉で書くことや要点を絞って表現することを意識しながら指導する。 ・「問題→正しく読む→図に表す→式化」を学校全体で意識する。 ・データや資料を読み取る指導をする際には、他教科との関わりも意識して取り組む。
理科	○実験結果をもとに、妥当な考えを表現し、応用できる児童が多い。 ○学力差が少なく、資料をもとに要点をつかんだり、キーワードを拾ったりすることができる。 ●算数の考え方と結び付けながら、科学的に思考・表現する力や事象から理科の見方・考え方を働かせ、問題を見出す力をつける必要がある。 ●エネルギー領域に関する知識・理解を深める必要がある。	・自然体験活動を充実させる必要がある。 ・児童自ら問いを見出し、主体的に学習に取り組む授業づくりを工夫して取り組んでいく。 ・ものづくりや実験の機会を充実させる。

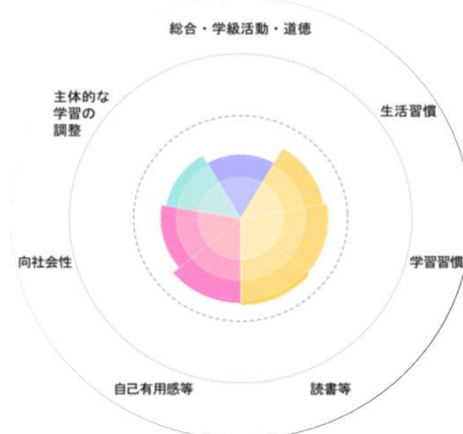
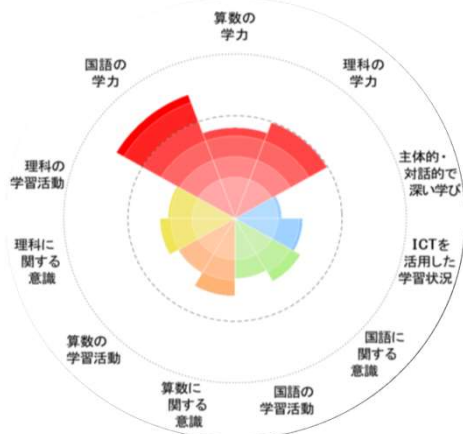
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○ICTの活用ができているとともに、自分の考えをもち、話し合い活動により、考えを深めることができていると感じている子が多い。 ○人に役立ちたいと考える子どもが多い。 ●「自分にはよいところがある」「将来の夢をもつ」の項目が低い。 ●地域や社会のために何かしたいかを考えるににくい子が多い。 ●総合学習で調べたことを発表することが平均より少ない。 ●読書を好きだという子が県平均より少ない。	・自己有用感を育てるような声掛けを続けるとともにエンカウンターを取り入れる等、こども同士で認め合う関わりを作る。 ・総合的な学習の時間に情報活用のプロセスを経験した。今後も継続する。 ・平和学習やSDGs等の学習を通して、社会を見る目や身近なことから考える時間を作る。 ・読書を好きかどうかは個人差が大きいので、朝読書の時間を工夫する。本に触れる機会を作り読書が好きになるような工夫をする。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・研究テーマを「自ら考え、学び合うこどもの育成」とし、①一人一人の考えを大切にしたい授業づくり、②伝え合う場の工夫に重きをおき、授業研究や研修を行う。 ・自己有用感を高める取組を行う。それぞれの強みを知って、伸ばしていくように声がけするとともに、全職員で児童の成長を支える。
------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

11

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

